**第23課 主の中で喜びなさい 2018.6.10**

◎ 賛美(一同) : 韓日495番(聖歌467番)、韓日399番(聖歌456番)

◎ 信仰告白(一同) : 使徒信条　◎ 御言葉朗読(一同) : ネヘミヤ8章9～10節

◎ 本文朗読　◎ 主の祈り(一同) : 一番最後に

◎ 今日のマナ

あらゆる事件、事故、伝染病、災難の知らせが聞こえる時、人々は心の平安を失い恐れに襲われるようになります。彼らが恐れる理由は状況が深刻であるからではなく、彼らの中で不安と不信が広がっているからです。しかし、信仰の人々は煩い、心配、悩みの状況の中で心を堅く守らなくてはなりません。神様の民たちはどのような状況に置かれても神様によって喜び、平安を失いません。

**1. みことばをくださった神様**

バビロン捕虜生活を終えてエルサレムへと戻って来た南ユダの民たちは神様のみことばを聞くために、同じ日に一つの場所に集まりました。南ユダの民たちが集まった日は彼らが3度に渡った帰還と聖殿および聖壁再建を全て終えた後に迎えた新年の最初の日でした。普通なら、節季には男だけ参加できましたがこの日は男女を問わず、　神様のみことばを聞いて理解することのできる全ての人が集まりました。彼らは早朝から正午まで7時間以上みことばを続けて読み、聞きました(ネヘミヤ8：2-3)。また、神様のみことばを慕い求める心でみなが立ち上がり、みことばを聞きました(ネヘミヤ8：5)。彼らは偉大な神様のみことばを座って聞くことができず、恐れ震える心で立ち上がったのです。このような南ユダの民たちのように私たちも神様のみことばを慕い求めなくてはなりません。

私たちが慕い求めなくてはいけない神様のみことばには真の回復の道、癒しの道、祝福の道があります。神様のみことばは生きていて、神様のみことばだけが、私たちを癒し、新しくし、変えることができます。世の知識と知恵、思想と哲学は瞬間的なものです。このようなものから問題の答えや人生の道を捜そうとしていてはいけません。しかし神様のみことばは永遠です。イザヤ40章8節は“草は枯れ、花はしぼむ。だが、私たちの神のことばは永遠に立つ。」”と言います。私たちは永遠な神様のみことばを慕い求めなくてはなりません。神様のみことばはいのちであり、力であり、神様のみことばの中には恵みと癒しと赦しが込められています。したがって、私たちは神様のみことばによって武装し、神様の栄光のために生きて行かなくてはなりません。

**2.みことばに従順する民たち**

祭司長エズラが神様のみことばを宣言し神様を賛美する時、全ての民が“アーメン”で答え、地にひざまずき、神様にひれ伏し栄光を帰しました(ネヘミヤ8：6)。“アーメン”は“まことにそのように成されることを信じます”という告白です。南ユダの民たちは神様のみことばを慕い求めただけでなく、神様のみことばが成されることを信仰によって告白しました。このように私たちも神様のみことばにいつでも“アーメン”で答えなくてはなりません。

箴言30章5節は“神のことばは、すべて純粋。神は拠り頼む者の盾。”と言います。私たちが神様のみことばを“アーメン”で受けるならば神様は私たちの盾となってくださいます。人のことばはその人の呼吸が終わってしまえば終わりであり、完全ではありません、しかし神様のみことばは永遠で完全です。永遠で完全な神様のみことばに私たちはいつでも謙遜に耳を傾けて従順しなくてはなりません。

みことばに対する従順は神様の祝福を受ける近道です。しかし私たちが神様のみことばに従順して行う信仰を持つためには聖霊充満を受けなくてはなりません。エゼキエル36章26節から27節は“あなたがたに新しい心を与え、あなたがたのうちに新しい霊を授ける。わたしはあなたがたのからだから石の心を取り除き、あなたがたに肉の心を与える。わたしの霊をあなたがたのうちに授け、わたしのおきてに従って歩ませ、わたしの定めを守り行なわせる。”と言います。私たちは聖霊充満を受け、聖霊の力を受けてみことばの人にならなくてはなりません。人生でみことばを守り行う時にそのみことばが、私たちの中に住まうようになり、私たちの心の願いと求める祈りが答えられる祝福が臨みます。

**3. 主がくださる喜び**

南ユダの民たち：は神様のみことばを聞いてみなが泣きました。この涙は感謝と感激の涙そして、悔い改めの涙でした(ネヘミヤ8：9)。彼らはみことばを通して彼らの高慢さ、不信仰、偶像崇拝の罪を悟るようになり、悔い改めの涙を流しました。またエルサレムへと帰還した後、聖殿再建する間に経験した苦難によって裂かれ傷ついた心がみことばを通して癒され、回復し、感謝と感激の涙を流しました。私たちにもこのような悔い改めの涙、感謝と感激の涙が回復されなくてはなりません。私たちの時代は涙があまりにも枯れてしまいました。感謝と感激が消えました。このような時に私たちは“主よ、私たちを憐んでくださり、再び私たちに感謝と感激の涙を回復させてください。主の喜びが溢れるようにしてください！”と祈らなくてはなりません。

私たちがどれほど大変で困難な状況の中にいるとしても、恵みを与えられる神様が私たちと共におられるから私たちは喜ぶことができます。また私たちを癒し、回復させられる神様のみことばが私たちと共にあるので私たちは喜ぶことができます。ネヘミヤ8章10節は“さらに、ネヘミヤは彼らに言った。「行って、上等な肉を食べ、甘いぶどう酒を飲みなさい。何も用意できなかった者にはごちそうを贈ってやりなさい。きょうは、私たちの主のために聖別された日である。悲しんではならない。あなたがたの力を主が喜ばれるからだ。」”と言います。

いかなる問題と困難が近づいてきても私たちと共におられる神様によって喜び生きるならばそれがまさに、私たちの力と能力になります。詩編37篇4節は“をおのれの喜びとせよ。主はあなたの心の願いをかなえてくださる。”と言います。どのような試練が訪れても神様を力の基としている人は喜びと平安が溢れる人生を生きます。したがって毎日主の恵みの中で喜びで満ち溢れる人生、主のみことばを聞いて実践して勝利する人生を生きる私たち全てになることを願います。

◎ マナの要約

<みことばをくださった神様>

1. 捕虜生活を終えて戻ってきた南ユダの民たちは聖殿と聖壁再建後、神様のみことばを聞くために、同じ日に一つの場所に集まりました。

2. 私たちは南ユダの民たちのように神様のみことばを慕い求めなくてはなりません。

3.神様のみことばだけが、私たちを新しくし、変えることができます。

<みことばに従順する民たち>

1. エズラを通して神様のみことばが宣べ伝えられる時、南ユダの民たちは“アーメン”で答えました。

2. 永遠で完全な神様のみことばにいつも耳を傾け、従順しなくてはなりません。

3. 私たちがみことばの人になるためには、聖霊充満を受けなくてはなりません。

<主がくださる喜び>

1. 南ユダの民たちは神様のみことばを聞いて感謝と感激の涙、悔い改めの涙を流しました。

2. 涙が渇いた今日に感謝と感激の涙、悔い改めの涙が回復されなくてはなりません。

3.どのような状況になっても私たちは神様によって喜ぶことができます。

◎私の人生のマナ

<隣の人にあいさつ>

1. 神様のみことばを慕い求めましょう。　2. 神様のみことばに従順しましょう。　3. 主の中で喜びましょう。

<祈り>

1.みことばに従順し、みことば通りに実践することのできる信仰をくださいと祈りましょう。

2. 私たちの中で感謝と感激の涙を回復させてくださいと祈りましょう。

3. 神様の恵みの中で喜びが溢れる人生を生きるようにしてくださいと祈りましょう。

<とりなしの祈り>隣の人と祈りの課題を分かち合い祈りましょう。